

日中国交正常化45周年記念  
日中友好交流都市中学生卓球交歓大会  
実 施 報 告 書

(平成29年8月3日～8日)



平成29年10月

目 黒 区

## 【目 次】

I. はじめに	1
---------	---

### II. 中学生卓球交歓大会の実施内容【8月3日～8日】

1. 目的	1
2. 主催者	1
3. 日程	2
4. 参加者	2
5. 概要	2
6. まとめ	7
III. おわりに	8

### 【参考資料】

1. 「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会報告書」（団長）	10
2. 「交流レポート」（生徒2名）	11

## I. はじめに

目黒区と北京市東城区とは友好都市協定を締結しており、毎年度協定を取り交わし相互に訪問を行うなどの交流も行ってきた。

しかし、東日本大震災の発生以降相互の訪問が途絶えている状況が続いていたため、様々な機会を捉え、改めて目黒区への訪問を呼びかけてきたが、平成27年に入り、東城区長から、目黒区の代表団が訪中していただけるのであれば歓迎するとの回答を得た。

その後、東城区側からの招聘状に基づき、目黒区長を団長とする「目黒区友好交流代表団」を編成して平成27年7月1日から3日にかけて東城区を訪問し、今後の交流推進の方向性について、当時の張家明（ジャン ジャミン）東城区長から賛同をいただいた。

この懇談を踏まえ、平成28年7月25日から27日にかけて目黒区・目黒区教育委員会職員訪問団が北京市東城区と韓国ソウル特別市中浪区も含めた3区間の交流の実現に向け、実務者レベルでの会談を行い、一定の方向性を導き出すことができた。そして、本年7月25日から29日にかけて中学生による三区間スポーツ交流事業が開催されたところである。

こうした中、公益社団法人日本中国友好協会から2017年度に日中国交正常化45周年を記念した「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」への参加の依頼があり、友好都市協定を締結している北京市東城区との文化・スポーツ交流の更なる推進のため、目黒区として初めて参加することとなった。

本報告書はこの結果をとりまとめたものである。

## II. 中学生卓球交歓大会の実施内容【8月3日～8日】

### 1. 目的

日中国交正常化45周年を記念し、日中両国の中学生による卓球交歓大会を通じて、両国の友好都市、友好交流都市の地域間の友好関係とスポーツ界の相互交流の発展を促進し、特に21世紀を担う青少年の友好交流の輪を大きく広げることを目的とする。

### 2. 主催者

#### (1) 日本側

公益社団法人日本中国友好協会

公益財団法人日本卓球協会

#### (2) 中国側

中国人民対外友好協会

中国日本友好協会

中国卓球協会

### 3. 日 程

月 日	時間帯	内 容
8月3日(木)	午前 午後	・羽田空港から出国(JL-21便 9時10分発) ・北京空港到着。送迎バスでホテルへ移動。 ・ホテル北京会議中心到着。到着後、東城区のチームと顔合わせ。 ・監督会議
8月4日(金)	午前 午後	・中学生卓球交歓大会開幕式、模範試合 ・全チーム練習
8月5日(土)	全日	・予選リーグ
8月6日(日)	午前 午後	・決勝トーナメント ・決勝戦 ・中学生卓球交歓大会受賞式、閉幕式 ・天安門他見学
8月7日(月)	午前 午後	・万里の長城見学 ・雁栖(ヤンシー)湖見学 ・祝賀パーティー
8月8日(火)	午前 午後	・解散 ・北京空港から出国(JL-22便 20時40分発) ・羽田空港着(0時40分着)

<参考> 経費 (区交流団7名分)

旅費、宿泊費、現地車両費、通訳士経費、記念品等 1,566千円

### 4. 参加者

日中友好卓球交歓団(7名)

団 長 橋本 洋子 目黒区卓球連盟常任理事  
団 員 大林 浩子 目黒区卓球連盟理事  
角川 一喜 目黒区立目黒中央中学校主任教諭  
上田 広美 文化・スポーツ部長  
庄司 政弘 スポーツ振興課スポーツ事業係長

<選手> 目黒区立目黒中央中学校 第3学年男子生徒1名 上垣 優  
第1学年女子生徒1名 大塚 美智

### 5. 概 要

(1) 大会1日目(平成29年8月3日)

ア 東城区卓球チームとの顔合わせ

- ① 日 時 平成29年8月3日(木) 午後5時から5時30分
- ② 場 所 ホテル北京会議中心

同じチームとなる東城区の第一一五中学の副校長・担任教諭・中学生（中3男子及び中1女子）とホテルで顔合わせ。

目黒区で用意したユニフォームを渡し、中学生同士互いに名前の呼び方を確認し合う等、交流を深めた。



#### イ 監督会議

① 日 時 平成29年8月3日（木）午後9時から10時30分

② 場 所 ホテル北京会議中心

各チームの代表・通訳が会議に出席し、今大会の主旨や試合のルール、開幕式の進行等及び大会全体のスケジュールについて主催者側から説明を受けた。

#### ウ 大会の概要

① 大会は、全67チームを4つのブロック（1ブロック16から17チーム）に分け、各ブロックごとに優勝チームを決定する。（優勝チームは計4チーム）

② 試合は4シングル1ダブルスの5試合の団体戦とし、3試合を取ったチームが勝ちとなる。（ダブルスは男女混合で日本と中国のペアとする。）

③ 最初に各ブロック内で編成された4つのリーグ（1リーグ4から5チーム）で予選を行い、各リーグの上位2チームが決勝トーナメントへ進出し、優勝を争う。

### （2）大会2日目（平成29年8月4日）

#### ア 中学生卓球交歓大会開幕式、模範試合

① 日 時 平成29年8月4日（金）午前10時から11時15分

② 場 所 中国オリンピックセンター体育館

日中友好協会会長等の挨拶、日本、中国双方の選手代表による選手宣誓の後、元世界チャンピオンの郭選手による模範試合（ダブルス）を実施した。



## イ 全チーム練習

- ① 日 時 平成29年8月4日（金）午後1時30分から3時
- ② 場 所 中国オリンピックセンター体育館

全参加チーム合同で体育館において練習。目黒区、東城区のメンバーで基礎練習を行った後、他の参加チームと練習試合を行うなど試合に向けて積極的に練習を実施した。その後、三区間交流バスケットボール大会の会場となった地壇スポーツセンター卓球場に移動し、目黒区、東城区のメンバーのみで引き続き練習を実施した。



## (3) 大会3日目（平成29年8月5日）

### ア 中学生卓球交歓大会予選リーグ

- ① 日 時 平成29年8月5日（土）午前8時30分から10時30分  
午後2時から5時
- ② 場 所 中国オリンピックセンター体育館

4チームの総当り戦で予選リーグを開始。全3試合行い、目黒区、東城区連合チームは予選2位でリーグ戦を勝ち抜き、決勝トーナメント進出を決めた。



## (4) 大会4日目（平成29年8月6日）

### ア 中学生卓球交歓大会決勝トーナメント

- ① 日 時 平成29年8月6日（日）午前8時30分から10時15分
- ② 場 所 中国オリンピックセンター体育館

決勝トーナメント1回戦で三重県津市、江蘇省鎮江市の連合チームと対戦。ゲームカウント2-3で惜敗。

## イ 中学生卓球交歓大会決勝戦

- ① 日 時 平成29年8月6日(日)午後2時から3時30分
- ② 場 所 中国オリンピックセンター体育館

各ブロックの決勝戦進出チームにより決勝戦を開始。各ブロックの優勝チームは以下のとおり。

- 第1ブロック 三重県、河南省連合チーム
- 第2ブロック 長崎県、上海市連合チーム
- 第3ブロック 長崎県、湖北省連合チーム
- 第4ブロック 北九州市、大連市連合チーム

## ウ 中学生卓球交歓大会受賞式、閉会式

- ① 日 時 平成29年8月6日(日)午後4時から4時30分
- ② 場 所 中国オリンピックセンター体育館

授賞式では優勝、準優勝チームの選手らにトロフィーが授与された。その後、閉幕式が行われ、閉幕式終了後の試合会場では、ともにチームを組んだ両国の選手たちが写真撮影などを楽しんだ。



## (5) 大会5日目(平成29年8月7日)

### ア 万里の長城見学

- ① 日 時 平成29年8月7日(月)午前10時から11時15分
- ② 場 所 万里の長城

日中の最高気温が30度を超え、多くの観光客で混雑している中、チームメートの中国人選手と数百メートルの急坂を息を切らしながら歩いた。

万里の長城は、中華人民共和国に存在する城壁の遺跡でユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録されており、現存する人工壁の延長は6,259.6kmである。

北方の異民族が侵攻してくるのを迎撃するために、秦代の紀元前214年に始皇帝によって建設されたが、



観光用に整備された一部のほかは、崩落している状態となっている。

修復の進んだ北京周辺の長城は観光名所として多くの観光客が押し寄せ、とくに八達嶺長城は北京から 60 km というアクセスの良さもあいまって中国観光の目玉の一つとなっており、国外からも観光客が押し寄せる場所である。2008 年には北京オリンピックの聖火リレーが八達嶺を通過している。

## イ 雁栖湖見学

- ① 日 時 平成 29 年 8 月 7 日 (月) 午後 2 時分から 3 時 15 分
- ② 場 所 雁栖湖 (ヤンシー湖)

過去にアジア太平洋経済協力会議 (A P E C) などの国際会議が開かれた雁栖湖の国際会議場や雁栖湖周辺を見学した。



雁栖湖は国の定める 4A 級の観光地であり、6 年連続で「首都文明観光地」に選ばれている。毎年春と秋には、雁と鶴の群がここで羽を休めることがあり、そのため、雁栖湖と名付けられた。

雁栖湖は北京市街地からは約 58km のところにあり、交通も便利である。ここは景色が良く、湖の水は透き通って碧く輝き、水上レジャースポーツが盛んで

休日を通すには理想的な場所で、毎年 5 月から 10 月までが観光シーズンとなる。

雁栖湖は三方を山に囲まれており、北は標高 1200m の軍都山、西は標高 811m の紅螺山、東は標高 186m の金灯山である。山にはカエデや、松柏、灌木などが生えている。観光エリア全体の 80% が植物で覆われている。



## ウ 祝賀パーティー

- ① 日 時 平成 29 年 8 月 7 日 (月) 午後 6 時から 8 時
- ② 場 所 ホテル北京会議中心
- ③ 参加者 大会参加者全員

地元の体育学校の学生によるオープニングパフォーマンスで会場を盛り上げた後、大会会長の乾杯により祝賀パーティーがスタートした。

大会に参加した選手、監督や大会役員等が一同に会し、テーブルを囲んで会食をしながら交流を深めた。





#### (6) 大会6日目(平成29年8月8日)

ホテルをチェックアウトし、送迎バスで北京空港へ向かい、11時頃に空港に到着。空港での昼食後、出国手続き等を済ませて予定どおり飛行機に搭乗したが、離陸直前の雷雨により予定時刻より4時間遅れて出発。0時45分頃、羽田空港に到着し、タクシーに分乗して帰宅した。

### 6. まとめ

日中友好交流都市中学生卓球交歓大会は、日中国交正常化45周年を記念して開催され、目黒区は友好都市協定を結んでいる北京市東城区の中学生と組んで初めて参加した。チームが一丸となって練習を行うことで互いに理解し、親睦を深めることができたことは、参加した中学生にとって貴重な経験となった。

試合においても相互の信頼感に基づくプレーが見られ、予選リーグを突破し、決勝トーナメント進出という結果を残すことができたことは、大きな自信に繋がった。

また、炎天下で歩いた万里の長城や雁栖(ヤンシー)湖の見学により中国文化の一端に触れ、また、その夜に開催された祝賀パーティーなどで他のチームとの親交も深めるなど、日本では経験できない交流を体験することができた。

今回、東城区から参加した中学校の副校長から目黒区の中学校との交流を希望する申し出があり、区としても、今大会に参加したことにより、東城区とのより一層の交流推進を図るとともに学校同士の交流の広がり期待することができた。生徒たちにとっても、同世代の仲間と大切な時間を過ごした経験を今後の国際交流及び国際貢献の場で生かしてくれることを願っている。

今大会のような青少年によるスポーツ交流事業に積極的に参加していくことで、自治体間や学校同士の交流が継続し、このような取り組みが区民全体に広がっていくことを期待している。

### Ⅲ. おわりに

日中友好交流都市中学生卓球交歓大会は、友好都市協定を結んでいる日中両国の中学生（男女1名ずつ）が同じチームとして参加し、4人のメンバーが「友好第一」の気持ちで試合を行うことにより、友好の思い出づくりとすることを目的として、1992年度（平成4年度）以降、5年ごとに開催している。

この大会は、単なる交流戦ではなく、友好都市の中学生同士が同じチームを組んで試合を行うという形式をとることで参加した中学生相互の信頼感や親睦を深めることに繋がり、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、そして次の2024年の大会で活躍できるような世代の子どもたちのスポーツ交流の進展に向け、大変有意義なものであった。

この大会に参加した生徒が他国の中学生同士の交流を通して、社会的にも精神的にも大きく成長し、今後の自分の人生に生かしてほしいと願うものである。

また、東城区から目黒区の中学校との交流を希望する申し出により、生徒のみならず学校同士の新たな交流へ期待できたことにより、東城区とのより一層の交流推進に繋げることができた。

今後も交流事業を着実に実施し、更なる友好交流の発展に努めていきたい。

## 【参考資料】

1. 「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会報告書」

日中友好卓球交歓団 団長

2. 「交流レポート」

日中友好卓球交歓団 選手2名

## 1. 日中友好交流都市中学生卓球交歓大会報告書

日中友好卓球交歓団団長 橋本 洋子

(目黒区卓球連盟常任理事)

平成 29 年 8 月 3 日から 8 日まで、北京市にて「日中国交正常化 45 周年記念、日中友好交流中学生卓球交歓大会」が行われた。

大会は 5 年に 1 度開催され今回で 6 回目で、目黒区は初めての参加となった。日中友好協会と日本卓球協会、中国人民対外交友好協会、中日友好協会、中国卓球協会が主催で、後援は日本総務省、日本外務省、日本スポーツ庁、中国外務省、中国国家体育総局、また多くの協賛を得ての大会であった。

双方の友好都市から選手を出し合っ編成された 67 チームが出場し、大会には関係者を含む 650 人が参加した。開会式には、中国と日本から多くの要人が臨席し、我々卓球人としては日本卓球協会から藤重貞慶会長がお越しになったことで身の引き締まる思いで臨んだ。

競技は、北京五輪の舞台の一つ国家北京オリンピックセンター体育館で行われ、友好交流大会とはいえ、公認審判員のコントロールの下、国際試合さながらであった。その中で、東城区と目黒区の選手が一丸となって戦った結果、1 日目は激戦を制して予選リーグ 2 位の成績で決勝トーナメントに進出することができた。とても嬉しく大変意義のあることだった。東京都からは 7 団体が出場。その内東京都と北区と目黒区の 3 団体が決勝トーナメントに進出した。2 日目決勝トーナメントに入ると、試合のレベルがさらに上がり、残念ながら準々決勝で惜しくも敗退となった。東京都と北区も同様の結果であった。

しかしながら、同世代の中国の選手と共に試合ができたこと、多くの選手の実力を体感することできたことなど、上垣、大塚両選手にとっては一生忘れることのない貴重な経験となった。北京市東城区の選手がとてもフレンドリーで言葉が通じなくともすぐに仲良くなれた。試合ではジェスチャーなどで意思疎通ができるほど心の距離が縮まっていった。

この大会の開会式で、中国側を代表して李小林・対外交好協会会長が述べられた「選手には、卓球の技術と友情の両方を得て成長し、両国の懸け橋になってほしい。」というお言葉通り、両選手が 3 日前に初めて対面したとは思えない一体感で戦うことができた。食事の面では、宿泊先のホテルで毎日三食多彩な中華バイキングを堪能した。

日程最終日は、大会に関わった全ての方々、1,000 人近くでバス 25 台に分乗し万里の長城と 2014 年の APEC (アジア太平洋経済協力会議) 首脳会議の会場となった雁栖湖の見学ツアーが実施された。夜は祝賀レセプションが催され、選手たちはリラックスした雰囲気の中で交流を深めることが出来た。中国伝統芸能やカンファーなど多彩なパフォーマンスが次々と披露され、多彩な中国料理をいただきながら中国の歴史や文化を堪能することができた。

大会を終えて思うのは卓球王国中国、中学生とはいえレベルの高い選手ばかりだった。この度このように貴重な国際交流の場に参加させていただいた関係者の方々のご尽力に感謝申し上げますとともに、選手それぞれが今回の体験を日中交流及び国際貢献に生かして成長してほしいと願う。

## 2. 交流レポート

日中友好卓球交歓団 選手 2名

目黒区立目黒中央中学校 3年D組 上垣 優

私はこの日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に参加し、6日間中国にいて、学んだことがたくさんありました。

第一に、卓球の技術です。中国選手は本当にミスが少なく、ラリーをしてもずっと球が返ってきてつらかったし、コントロールもとても良かったです。同じくらいの年なのに、中国と日本では差があるように思いました。その部分ではとても悔しかったです。ですが、この悔しい気持ちを忘れず、一生懸命努力し、自分が次に中国の方々などと戦うときは必ず勝てるようにしたいです。

第二に、違う国や地域の方々との交流の大切さです。普段なかなか交われない人々との交流はとても楽しかったです。もちろん言語という壁はありましたが、なんとか乗り切り中国の方々との交友を深められたと感じました。また中国の文化にもたくさん触れることができ、日本では体験できない事を体験できました。このように中国では、たくさんの事を学んだり感じたりできました。

これも引率してくださった先生や目黒の役員の方々のご協力があったと思います。この人達に恩返しをするという意味でも自分はこれから努力し、結果を残していきたいと思っています。

目黒中央中学校 1年D組 大塚 美智

日中友好都市中学生卓球交歓大会に目黒区代表選手として、8月3日～8月8日に中国を訪れました。

この大会は、日中国交正常化を記念して5年ごとに開催される大会で、今年は45周年を迎えました。

試合は、日本代表2名と友好都市の中国2名の計4名がチームを作り67チームが、参加しました。同じチームの北京市東城区のチャオさんとコオさんに初めて会った時、言葉が通じなく通訳の方を通さないと伝わらなく心配でした。

2日間試合が行われ、1日目は4チーム（長野・河北省、下関・山東省、鹿児島・可南省チーム）と総当たり戦でした。私は中国選手と対戦しましたが、球が速く、回転もかかり、強打なので、打ち返すのがやっとなので、チームに貢献できませんでした。そんな私に試合中、チームの皆が「がんばれ」など、声をかけてくれアドバイスもしてくれました。チームが一つになり、仲良くできて嬉しかったです。

大会後、万里の長城と雁柄湖を見学しました。教科書や地図帳で見る万里の長城よりも大きく、壁も高く実際に歩いて触って、「中国は大きい」と思いました。

昔から中国とは、文化や芸術などたくさん交流がありました。今回、日中友好都市中学生卓球交歓大会の記念すべき45周年に参加でき、これからも卓球の練習を頑張るとともに語学もしっかり身につけ、2020年の東京オリンピックではボランティアとして参加できるようになりたいと思いました。

